

飛田就一教授略歴・主要著作目録

略 歴

- 1929年 5月27日 大連市南山麓（現・中華人民共和国）に生まれる
- 1951年 3月 京都府立鴨沂高等学校卒業
- 1954年 4月 立命館大学文学部哲学科哲学専攻入学
- 1958年 3月 同卒業
- 1958年 4月 立命館大学大学院文学研究科哲学専攻修士課程入学
- 1962年 3月 同修了
- 1963年 4月 立命館大学非常勤講師（1969年 9月まで）
- 1969年10月 立命館大学助教授（経済学部所属）
- 1974年 4月 立命館大学教授（経済学部所属）
- 1980年 9月 ドイツ連邦共和国フランクフルト大学客員教授（1981年10月まで）
- 1982年 4月 立命館大学二部協議会協議員（1984年 3月まで）
- 1986年 4月 立命館大学人文科学研究所専任研究員（1989年 3月まで）
- 1995年 3月 立命館大学定年退職
- 1963年以降、龍谷大学、同志社大学、京都学園大学、京都教育大学（「哲学」担当）、長崎大学（「現代哲学」担当〈集中講義〉）、大阪大学文学部・大阪大学大学院文学研究科（「現代哲学」・「論理学」・「科学史・科学論」担当）などで非常勤講師を勤める。
- 〈所属学会〉 日本哲学会 日本科学哲学会 日本イギリス哲学会 比較思想学会 日本カント協会 関西哲学会 Österreichische Ludwig Wittgenstein Gesellschaft

主要研究業績

[論文・学会発表]

- 1958年 1月 Über den Raum und die Zeit bei Kant（卒業論文）
- 1961年 5月 Sagberes と Unsagbares（関西哲学会個人研究発表）
- 1962年 3月 Ludwig Wittgenstein の前期哲学（修士論文）
- 1965年 2月 ヴィトゲンシュタインの「事態 Sachverhalt」概念について（『立命館文学』第236号）
- 1967年 3月 ヴィトゲンシュタインの哲学における「前期」から「後期」への転換について（『立命館文学』第261号）
- 1967年 5月 ヴィトゲンシュタインにおける「論理」と「言語」（日本哲学会個人研究発表）
- 1972年10月 ヴィトゲンシュタインの哲学観（『立命館文学』第340, 341, 342号）
- 1974年10月 言語の「私的使用」の構造について（『立命館文学』第352, 353, 354号）

1990年1月 異文化理解の構造—文化の相対性をめぐって—（『国際化と異文化理解』〈法律文化社刊〉所収）

[編著書・翻訳書・監訳書・共訳書]

1970年1月 J. ハートナック 『ヴィトゲンシュタインと現代哲学』（翻訳書），法律文化社

1979年5月 『知性の探究』（編著書），法律文化社

1979年5月 『論理学を学ぶ人のために』（編著書），世界思想社

1980年10月 K. O. アーベル他 『言語と認識』（共訳書），法律文化社

1980年10月 F. A. ハンソン 『文化の意味—異文化理解の問題—』（監訳書），法律文化社

1983年10月 H. ヘンドリヒス 『知のシステム』（翻訳書），世界思想社

1983年10月 L. チャイカ 『現代論理学の基礎』（共訳書），富士書店

1984年6月 J. シュベック（編）『大哲学者の根本問題（現代Ⅲ）』（監訳書），富士書店

1987年4月 『哲学の問題と展開』（編著書），富士書店

1990年1月 『国際化と異文化理解』（編著書），法律文化社

1990年1月 J. ハートナック 『人権・正義・国家』（共訳書），富士書店

1990年9月 V. クラフト 『ウィーン学団』（監訳書），富士書店

1992年4月 『哲学基本事典』（編著書），富士書店

1995年1月 C. A. van ペールセン 『現象学と分析哲学』（監訳書），富士書店

[書評・学界動向・評論]

1961年3月 Erik Stenius: Wittgenstein's Tractatus, A Critical Exposition of its Main Lines of Thought (Oxford, Basil Blackwell, First Printed April, 1960) (書評, 『立命館文学』第188号)

1962年5月 Alexander Maslow: A Study in Wittgenstein's Tractatus (Berkeley and Los Angeles University of California Press, 1961) (書評『立命館文学』第203号)

1963年9月 Justus Hartnack: Wittgenstein und die moderne Philosophie (W. Kohlhammer Verlag, Stuttgart, 1962) (書評『立命館文学』第219号)

1966年7月 山元一郎『コトバの哲学—感性・言語・論理—』（1965年，岩波書店）（書評「立命館学園新聞」第1043号，第1044号）

1966年9月 サルトルの来日とチョムスキーの来日と（思想の動向『立命館文学』第255号）

1966年10月 沢田允茂『哲学の基礎』（1966年，有信堂）（書評『立命館文学』第256号）

1967年5月 永井成男，黒崎 宏『科学哲学概論』（1967年，有信堂）（書評『立命館文学』第263号）

1967年11月 言語と論理（評論「立命館学園新聞」第1090号）

1977年7月 「システム哲学」への模索から（思想の動向『立命館文学』第384，385号）